

(様式6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	2894900055		
法人名	但南建設株式会社		
事業所名	グループホームたんなん		
所在地	〒669-5143 兵庫県朝来市山東町柿坪1-1 (電話) 079-670-7121		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2007年12月14日	評価確定日	2008年1月28日

【情報提供票より 平成19年11月27日事業所記入】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 3月 28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 ~ 48,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有 (100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (11月27日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	3名	要介護 2	5名
要介護 3	1名	要介護 4	
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立朝来梁瀬医療センター
---------	--------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・法人代表者の地域に役立つ福祉への思いで開設されたホームである。元社員寮の木造の古民家を改修し、広い庭園も備えたゆとりのある建物である。一帯は山沿いの田園地帯で、多数の利用者は以前農業に従事していたことから、ホーム所有の畑で、季節に応じた野菜作りに専念でき、これまでの経験を生かせる取り組みをしている。さらに個別の外出や個々の好きなことへの利用者主体の支援と環境整備を整える努力をしている。地域の中で見守られながら、利用者が安心できる自立した生活の継続を目指した取り組みが今後期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	・平成19年3月に開設され、今回の評価が初回となる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) ・全職員で取り組んだ。今回、評価項目の一つひとつ確認することで、日ごろの業務を振り返る機会となった。これまで漠然と理解していたことが、裏づけされた説明により、納得のいく理解に繋がり、出来ていること、出来ていないことが明確になった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	・地域参加者からは、ホームの情報誌の全戸配布の要望があった。まず、ホームを知ってもらうことが最優先であると考え、ホームが主催して認知症の講座を開催するとともに、家族からは、状況報告や思いを語ってもらい理解に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	・現在、来訪時に個別に話しを聞くようにしているが、さらにホームの様子や個々の利用者の様子を伝える新聞等で毎月報告したいと検討している。ホーム自身も情報を発信することで、家族からの積極的な意見を引き出し、運営に反映させていきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	・ホーム近くの地蔵さんの掃除や散歩時での挨拶など、積極的に地域に溶け込むよう努めている。小学校との交流の機会もでき、畑作業を通じての近隣の協力も得られつつある。今後は、地域の高齢者や認知症関連の相談を受けることにも積極的に取り組み、双方向の交流に向けた働きかけが求められる。

2. 第三者評価結果票

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・木造2階建ての元社員寮を改修した民家がホームである。「その人らしさ」「あるがままの自分」を尊重し「地域の中で生活していくこと」を理念としている。	○	・開設間もないが、地域に積極的に働きかけて、認知症の正しい理解や予防の啓発活動を意図しておられる。それを通して中核的拠点となることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念に沿った一人ひとりのペースを尊重し、利用者の気持ちに沿う支援をしている。ホーム会議や申し送り等で確認し、意識の統一に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・近くのお地藏さんの掃除をしたり、小中学校の運動会に参加したり、夏休みに小学校高学年のボランティアを受け入れている。所有畑での野菜の手入れや収穫時には、近隣の人の協力も得られている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者、職員全員で自己評価を行った。これまで漠然と理解していたことが、裏づけのある説明で、納得のいく理解につながった。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・地域代表者からは、ホームの情報誌の全戸配布の要望があった。家族参加者からは、状況報告や思いを話す機会となっている。会議での要望により、認知症の講座を開催した。	○	・早急に広報誌の全戸配布を実現されたい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市担当者とは、事務問題等必要に応じて相談している。地域ケア会議では、情報提供、情報交換の機会として利用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月来訪される家族がほとんどであるためその都度報告相談している。電話での報告も必要に応じて行っている。	○	・個々の日常の様子を写真をアルバムに整理し、ホーム新聞として報告することを考えている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の来訪時ごとに、直接話しを聞く時間を取っている。こちらから、聞き出す工夫をするともに、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・開設当初からの職員がほぼ関わっており、チームワークがとれている。現在職員の異動はないが、やむをえない離職が出た場合は、全職員で配慮していく方針である。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・全職員に、外部研修参加を勧めるとともに結果報告で全員で周知を図っている。	○	・会議の余裕時間を利用した内部研修など機会を捉えた柔軟な研修体制の検討が望まれる。
11	20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・現在、市内同業者との交流はない。ちかじか複数のホーム開設が予定されていることから、交流が必要と考えている。	○	・当ホームが、積極的にリードして交流会を推進することが期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・施設自体が古い民家を改修した落ち着いた雰囲気である。入居体験も希望に応じており家族にも協力していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者は農作業の経験豊富で元気な人が多く、野菜づくりから、調理、漬物をつけることなど進んでいき、職員は教えてもらっている。外出時には、職員を案内する利用者もいる。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居時、本人、家族の意向を十分に確認しさらに、日常の様子からも個々の気持ちを汲み取るよう努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	・家族には報告相談は随時しているが、要望は少ない。本人の希望と日ごろの様子から介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・定期的見直し及び状況に応じた必要な見直しは、ホーム会議で、個別カンファレンスを行い、全職員で意見を出し合い、その都度確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・利用者の希望に応じて、外出や買物に行ったり、体調変化や本人の訴えがある時はかかりつけ医の受診を援助する等利用者や家族の状況や要望に応じた支援をしている。地域の要望に応じて、認知症予防教室を開催したいと計画 중이다。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用前からのかかりつけ医を主治医として受診している。往診を希望する家族には、近くの病院を紹介している。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・元気な利用者ばかりなので、まだ重度化、終末期についての方針ができていない。	○	・利用者や家族が安心してサービスが利用できるよう、事業所が対応できる最大の支援方法を踏まえて方針を統一することが求められる。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員とうちとけた言葉遣いで話されている。本人が恥ずかしいと感じることは、他者に気づかれないよう声かけしている。個人情報保管庫に管理している。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日課は特に決まっていない。その日したいことを聞き、利用者のペースに合わせて一日を過ごしてもらっている。食事の時間も決まっていない。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・農園で栽培した野菜や、利用者と一緒に買い物した食材で調理している。利用者は食事の一連の過程に参加し、会話を楽しみながら職員と一緒に食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は毎日16時から20時の時間で行っている。入浴を嫌がる人にはタイミングをみて、声かけしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・農園作業や調理など得意なことを中心に役割のある生活を支援している。喫茶店へ職員と一緒にいく等一人ひとりの楽しみや気晴らしも勧めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・毎日の買い物や農園へ出かけるのは習慣になっている。一泊二日の旅行や、菩提寺にお参りしたり、利用者の希望にそった外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・鍵をかけないケアを行っている。外へ出たような時には職員が付き添って散歩することもある。地域の人にも事業所の方針を伝え、一人で出ていたら声かけしてもらおうよう頼んでいる。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・利用者と一緒に避難訓練をしている。職員はマニュアルを念頭に、災害時に備えている。地域へも協力をお願いしている。夜間の訓練は行っていない。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・チェックが必要な利用者は水分摂取表を作って必要な水分を確保している。好みの飲み物や食べ物で栄養や水分を補う等個別に支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有スペースの一角のコタツでは利用者が集まり、会話や手作業が弾んでいる。事業所は掃除や屋内の換気に注意して、心地いい環境作りを心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にもコタツを置いている。自宅での過ごし方の継続として家具や身の回りの品を利用時に持ち込んでもらうよう、事業所は働きかけている。		

 は、重点項目。